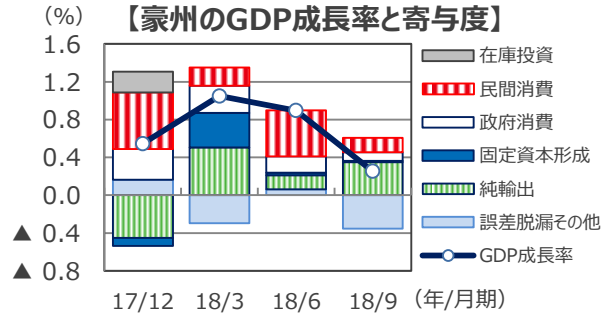


今日のトピック 市場予想を下回った7-9月期の豪州GDP成長率（2018年12月）
良好な雇用環境に変化はなく、豪ドルも堅調な展開へ

ポイント1 7-9月期の成長率は鈍化
前半の高い成長の反動

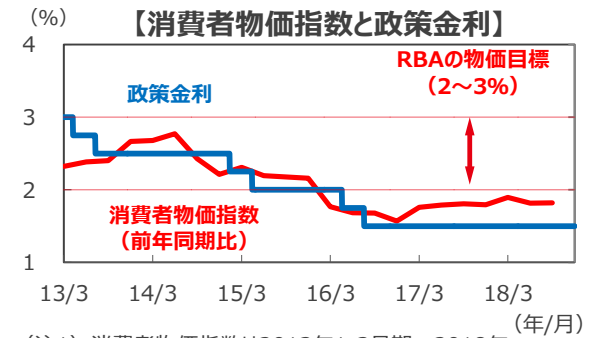
- 12月5日に公表された2018年7-9月期の豪州の実質GDP成長率は前期比+0.3%となり、前期の同+0.9%、市場予想の同+0.6%を下回りました。個人消費や設備投資が、前半年に大幅増となった反動等から伸び悩んだためです。
- しかし、良好な雇用環境が維持されていることを踏まえると、今後、個人消費の持ち直しが見込まれ、成長率は再加速が予想されます。



(注) データは2017年10-12月期～2018年7-9月期。成長率は前期比。
(出所) Bloomberg L.P.のデータを基に三井住友アセットマネジメント作成

ポイント2 金融政策は中立を維持
景気、物価見通しに修正はなし

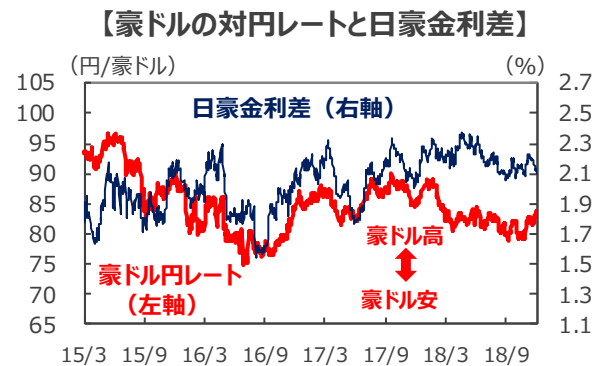
- 豪州準備銀行（RBA）は、12月4日に開催した金融政策決定会合で、市場の予想通り政策金利を1.50%に据え置く決定をしました。
- 議事要旨では、「世界貿易に減速の兆候」との指摘がありましたが、「+3.5%程度の経済成長、緩やかに改善する失業率と物価」という豪州経済に関する基本的な見方に修正はありませんでした。
- 直近のGDP統計は下振れしましたが、RBAの経済見通しに変化がないこと等から判断すると、政策金利は当面、据え置かれると考えられます。



(注1) 消費者物価指数は2013年1-3月期～2018年7-9月期。消費者物価指数はトリム平均値。
(注2) 政策金利は2013年3月31日～2018年12月5日。
(出所) Bloomberg L.P.のデータを基に三井住友アセットマネジメント作成

今後の展開 豪ドルは底堅い動きへ

- 予想を下回る豪州GDP統計を受けて豪ドルは下落しましたが、豪州の良好な経済ファンダメンタルズに変化はなく、日豪金利差等も考え合わせると、今後、豪ドルは対円で堅調に推移する見込みです。



(注1) データは2015年3月1日～2018年12月4日。(年/月)
(注2) 金利差は豪州-日本。金利はともに3年国債利回り。
(出所) Bloomberg L.P.のデータを基に三井住友アセットマネジメント作成

ここもチェック! 2018年12月 3日 『FOMC議事要旨』、来年利上げ打ち止めの可能性
2018年11月22日 堅調な展開が見込まれる豪ドル相場（2018年11月）

■当資料は、情報提供を目的として、三井住友アセットマネジメントが作成したものです。特定の投資信託、生命保険、株式、債券等の売買を推奨・勧誘するものではありません。■当資料に基づいて取られた投資行動の結果については、当社は責任を負いません。■当資料の内容は作成基準日現在のものであり、将来予告なく変更されることがあります。■当資料に市場環境等についてのデータ・分析等が含まれる場合、それらは過去の実績及び将来の予想であり、今後の市場環境等を保証するものではありません。■当資料は当社が信頼性が高いと判断した情報等に基づき作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。■当資料にインデックス・統計資料等が記載される場合、それらの知的所有権その他の一切の権利は、その発行者および許諾者に帰属します。■当資料に掲載されている写真がある場合、写真はイメージであり、本文とは関係ない場合があります。